



TITLE:

徳川時代ノ經濟學説

AUTHOR(S):

本庄, 榮治郎

CITATION:

本庄, 榮治郎. 徳川時代ノ經濟學説. 經濟論叢 1918, 7(6): 851-860

ISSUE DATE:

1918-12-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127461>

RIGHT:

徳川時代ノ經濟學說

本庄榮治郎

一

徳川時代ニオケル各學者ノ經濟思想ニ就テハ近來多少研究ノ歩ヲ進メツアルカ如クナルガ徳川時代ニオケル經濟思想ノ全般ヲ通觀シ一ノ纏リタル全體トシテ之ヲ論シタルモノハ余ノ寡聞ヲ以テスレハ、サキニ河上博士ノ「徳川時代ノ經濟學說ヲ論ス」(國家學會雜誌第十七卷百九十一號三十五年一月)及ヒ瀧本博士ノ「日本經濟學說ノ要領」(四十一年十一月刊行)アルノミニシテ未ダ多クノ論著ヲ見サルカ如シ。コゴニ紹介セントスル所ノモノハGarrett Drop-

雜錄 徳川時代ノ經濟學說

Pers 氏ガ一八九六(明治二十九年)三月十一日日本亞細亞協會ニ於テ報告セル所ニカカリ、同年ノ同協會報告書ニ掲載セラレタルモノノ大要ナリ。

二

(一) 徳川時代ニ於テハ治者階級ノ外ニ國民ハ四階級ニ分タレ、ソノ最高ノ地位ヲ占メシモノハ武士ニシテ農民之ニ亞キ、工匠第三位ヲ占メ、商人ハ最後ノ地位ニ立チタリ。コハ封建制度ニ依リ、主トシテ土地ニ倚賴シテ生計ヲ立テタル必然ノ結果ニ外ナラスシテ、各階級ハ一ノ社會上ノ身分(Caste)トシテ考ヘラレ、一ノ階級ニ屬スルモノハ上階級ニ上リ又ハ他ノ階級ニ下ルコトヲ得ス、一般ニ子ハ父ノ職業ヲ襲クヲ原則トセリ(多少ノ例外ナキニ非ス)。コノ社會制度ハ以前ヨリ存セシ所ナルヘシト雖、徳川時代ニ於テ大ニ完成シ組織付ケラルルニ至リシモノ也。コノ制度ニ反對スル思想ガ當時存セシヤ否ヤハ疑ナキヲ得スト雖、徳川幕府ハ自己ノ政體ヲ謳歌スルモノノ外ハ之ヲ國民ノ耳朶ニ觸レシメサル方針ヲ採リタ

(1) Transactions of the Asiatic Society of Japan, vol. XXIV, p. V-XX.

ルヲ以テ、反對思想ハ世ニ弘布スルニ至ラサリシナラン。然シナカラコノ社會組織ハ概シテ自然的ニシテ正當ノモノナリト考ヘラレタルカ如シ。例ヘハ太宰春臺^(六八〇)ノ如キハ自由產業ノ原則ニ強烈ナル反對ヲナシ身分制度ヲ以テ國家安泰ノタメ必要ナリトシテ曰ク「民ノ業ニ本末トイフコトアリ、農ヲ本業トイヒ工商買ヲ末業トイフ。工商ノ勞苦輕クシテ利潤多キヲ羨ミ農ヨリ工商ニ遷ル者多シ。左様ニアリテハ國ノ衰微トナル也。子細ハ農民漸々減少スレハ米穀乏クナル。工商多クナレハ種々ノ貨物出生シ、四方ヨリモ聚ル故ニ、人ノ奢侈ノ心ヲ引起シ金銀ヲ重寶スル風俗ニ成テ國用漸々ニ匱クナリ、上下貧乏ノ端トナル、國家ノ大ナル害也。是ニ因テ聖人ノ政ニハ天下ノ戶籍ヲ正シシテ四民ノ家數人別ヲ度々改テ農民ヨリ妄ニ他ノ業ニ遷ルコトヲ禁スル也」²⁾ト。現今ニ於テハカクノ如キ思想ハ頗ル幼稚ナルモノトシテ排斥セララルニ至ル可シト雖、歐洲ニオケル經濟學及經濟學說ノ歷史的發展ニ通曉セル人ニトリテハ、十七

世紀ニオケルコノ春臺ノ說ハ恰モソノ當時ノ學說ト相合スルモノナルゴトハ殊更說クノ要ナカラシ。例ヘハ身分制度ニ就テ見ルニ、中央及西部歐洲ニオケル人民ノ多數ニ對シテハ十九世紀ノ初メニ於テスラコノ身分制度存在シ、獨逸ニ於テハ一八〇七年ニオケルしゆたいんノ改革ニ至ルマテハ農民ノ大部分ハ農奴(Servant)ナリキ。而シテ農奴ハソノ身分ヲ變シシノ職業ヲ轉換スルノ自由ナカリシ也。一般ニ、各階級ノ個人ト雖、ソノ職業ヲ變スルヲ得サリキ。英國ニテハ十九世紀ノ初メニ於テ尙各種ノ禁止法存在シ、熟練ナル職工ハ移住スルコトヲ禁セラレ、器械ノ輸出モ亦禁セラレタリ、英國羊毛ヲ外國ニ賣却セル者ニ對スル刑罰ハ再犯ノ場合ニ死刑ヲ科セラレタリトイフ。實ニ移住ノ自由或ハ貿易自由ノ原則ハ、近時ノ文明國ノ何レニ於テモ十九世紀以前ニ於ハ僅小ナル例外ノ場合ノ外ハ決シテ認メラレサリシ也。近時ニオケルアラユル禁止法ニ反對スル議論ハ自由ナル需要ト供給ノ原則ニ基クモノナルガ、實際ニ於テ十七八世紀ノ日

(2) 日本經濟叢書、第六卷、經濟錄、107頁以下

本人ニトリテハ、恰モ吾人ニトリテ自由トイフコトガ最モ當然ノコトナリト考ヘラルルト同シク、制限ノ存スルコトヲ以テ當然ナリト信シタル也。ソノ當時ニオイテハカン自由放任(alaissez faire) 或ハあだむ、すみすノ自然的自由ノ制度(Simple and obvious system of natural liberty)ヲ以テシテハ、極端ナル制限の政策ガ擧クルコトヲ得タリシダケノ效果ヲ奏スルコト能ハサリシ也。一例ヲ擧クレハ今日ノ文明國ニ於テハ、假令凶作ノコトアリトスルモ忽チ外國ヨリ之レカ供給ヲ見、飢饉ノ慘狀ヲ呈スルコトナシ、コレ全ク迅速ニシテ且低廉ナル運輸通信ノ行ハレ又アル程度マテハ保險制度ノ存スルニヨルモノナリ。然ルニ十七世紀ニオケル日本ニ於テハ、運輸ハ不便ニシテ比較的巨費ヲ要スルノミナラス、單ニ内地各地方間ノミニ局限セラレタルヲ以テ、到底自由競争ニヨリテ需要供給ノ調節ヲ期スル能ハス、幕府カ之レニ干涉ヲ加ヘ以テ適當ナル調節ヲナササル可ラスト考ヘラレタルハ當然ノコトトイフヘシ。

(二) カク觀シ來ルトキ、吾人ハ果シテ經濟上ノ利害(Economic interest)ト所謂利己心(Self-interest)トハ同義ナリヤ否ヤノ疑問ニ到達スヘシ。近世ノ經濟學ガ利己心ヲ基礎トスルハ說クノ要ナシ、モトヨリ利己心ハ個人ノ利益ト共ニ他人ノ利益ヲモ尊重スルモノニシテ決シテ利己主義(Selfishness)ニ非ス、舊時ノ日本ニ於テ商人階級ガ何故ニ輕蔑セラレタルカノ理由ノ一ハ彼等ハ自己ノ私利私慾ノタメニ勦クモノト考ヘラレ、武士及治者階級ハ彼等ニ何等ノ負フ所ナキモノナリト考ヘラレタルニ由ル。而モコハ日本ノミニフラス同一思想ハ歐洲ニテモ約百年前ニ行ハレ、今日ニテモ商人階級ハ歐洲諸國ニテ軍人官吏ヨリモヤヤ低級ニ在リ。故ニ日本ハ十七世紀ニ於テ他ノ諸國ヨリ後レ居タルニアラスシテ、彼等ト對等ノ點ニアリシ也。ソハ兎モ角熊澤蕃山(一六九一)ハ利己心ト經濟上ノ利害トノ間ニ一ノ區別ヲ立テ、前者ハ他人ノ損失如何ニ拘ラス自己ガ出來得ルダケ多クヲ得ントスルモノニシテ、後者ハ何人ニモ損失ヲ及ボスコトナ

クシテ自己及他人ノ利益ヲ増進セントスルコトヲイフモノ也トセリ(註)。コノ區別ハ近時西洋ニテ社會上ノ利害 (Social-interest) ノ名ニヨツテナサル所ノモノト同様ナリ。一例ヲ郵便ニトランカ、郵便ハ本來政府ノ歲入ヲ學クルタメニ行フモノニアラスト雖、多クノ政府ハコレニヨリテ收入ヲ得ヘシ。而シテ郵便料金ハ信書ヲ配達スル費用ト正比例スルモノニアラス、一ノ手紙ハ遠隔ノ地ニ送ラレ、他ノ手紙ハ同一料金ニテ而モ近距離ノ處ヘ配達セラル、簡言スレハ郵便制度ハ一般社會ニ對シ最僅少ノ費用ヲ以テ重要ナル一通信方法ノ十分ナル恩恵ヲ與ヘントスル社會經濟の原則ニヨリテ行ハルモノ也。コノ原則ハ日本ノ封建時代ニテハ未ダ一般ニ正確ニ認メラレサリシ所ニシテ、之レガ實現ノ機會殆ントナカリシ當時ニ於テ、既ニ右ノ原則ガ少クトモ論議セラレタルハ該經濟學者ノ聰明ニヨル大ナル效績トイハサル可ラス。有名ナル日本社會ノ改革者タル二宮尊徳モ亦他ノ觀察點ヨリ同様ノ思想ヲ有シタリト稱セラル。

(註) 大學或問ニ曰ク「世間ノ富有ハ己チ利スレハ人チ損シ己ヨロコベバ人ウラム、國君富有ナレハ國中ウラム、大君富有ナレハ天下恨ム、小君富有ナレバナリ。大道ノ富有ハ國君富有ナレハ一國悅ビ大君富有ナレハ天下悅ブ大富有ナレハ也、天長地久ニシテ子孫福祿ヲ受、令名後世ニ傳ヘテ身安ク心樂ミアリ」トソノ世間ノ富有ハ即チ Self-interest ニ當リ、大道ノ富有ハ Economic interest ニ當ルモノナル可シ。

(三)、次ニ日本ニオケル舊時ノ經濟思想ガ歐洲ニオケル如何ナル經濟學派ノ思想ト最モ類似セルヤトノ問ニ接スルコトアラハ、余ハふいじをくらどヲ擧ケン、ふいじをくらどハ十八世紀ノ中頃ニ佛蘭西ニ於テ起リソノ派ノ開山タルけねーハ一七五五年頃ニソノ處女作ヲ公ニシ其後みらばー、りびゑー、ちゆるびーソノ他有名ナル學者相ツイテ出テタリ。コノ派ノ根本思想ハ土地ハアラユル富ノ唯一ノ源泉ナリトイフニアリ。從テ農業ノミヲ以テ生産の産業トシ、コレニ反シテ工商業ハ純餘利ヲ存セサルヲ以テ無益ノモノナリトイヘリ。即工業ニ於テハ商品ノ加工變形ノミガ行ハレ、商業ニテハ之ヲ一處ヨリ他處

ニ轉スルノミナレトモ、農業ニ於テハ商品ノ確實ナル増加ヲ生シ之ニヨツテ社會ノ富ガ増加スル眞ノ生産アリトナス也。土地ノ生産力工商無益トイフコノ基礎的思想ヨリシテ、彼等ハカノ有名ナル租税ノ原理即チ土地單一税 (The 'impôt unique ou territorial')——租税ハ土地ニ對シソノ生産力ニ應ジテ課セラルヘシ——ヲ説クニ至レリ。スベテノ租税ハ如何ニ課セラルトスルモ結局ハ土地ニ復歸セサルヲ得ス、故ニ初ヨリ迂回ヲ避ケテ直ニ土地ニ課税スヘキ也、單一土地税ハ租税ノ唯一正當ノ形式也。コノ學派ノ説ハ嚴格ニイヘハ十八世紀ノ中頃ニ起リシニアラスタダ其頃ニ至リテ漸ク發達シテ科學的ニ説明セラレシモノニテ、ソノ萌芽ハコレヨリモ以前ノ多クノ學者ニツイテ之ヲ見ルコトヲ得ン。屢自由のめるかんちりすとノ中ニ數ヘラルルをつくノ如キモ亦アラユル租税ハ土地ニ復歸スルコトヲ説キシ也。

然リト雖余ハ舊日本ノ經濟學者ガふいじをくらとノ如キ科學的學理ヲヨク理解シタリトナス

モノニ非ス、凡ソふいじをくらとノ如キ科學的ニ洗鍊セラレタル思想ガ一國ニ勃興スルニ至ルハ一朝一夕ノ業ニ非ス、當時鎖國ノ狀態ニアリシ日本ニ於テ系統アル經濟學理ガ形成セラルヘキコトハ望ミ得ヘキ所ニ非リシ也。タダソハ模糊不整ノ形體ヲトレリトハイヘ、彼等ハふいじをくらとト大體ニ於テ相似タル經濟思想ヲ有セシモノナルコトヲイハントスルニ過キス。例ヘハ太宰春臺ハ農產物ト他ノ富トヲ區別シ且一國ノ土地ハ富ノ根源ニシテスヘテノ生産力ハ結局ハ土地ノ生産力ニ依ルモノナルコトヲ道破セリ(註。佐藤信淵(一七七三—一八五四)モ亦同様ニ土地ヲ重視セリ、曰ク「經濟トハ國土ヲ經營シ物產ヲ開發シ部内ヲ豐富ニシ萬民ヲ濟救スルノ謂ナリ」ト。故ニ土地ヨリ大ナル生産ヲ舉クルコト即農業技術ニ關スルコトカ經濟學ノ一部ヲナセリ。又恰モけねート同シク、日本ノ經濟學者モ常ニ領土ノ所得ヲ増加スル方法ヲ以テ經濟學ノ最も重要ナル部分ナリトセリ。スヘテノ租税ハ土地ノ上ニ歸屬ストイフコトハ春臺ノ如キ經濟學者ニヨ

リテ明言セラレタルノミナラス、殊更ニ説クノ必要ナキホド自明ノ理ナリト考ヘラレタル如シ。從テ若シ租稅ガ土地ノ生産物ヨリ支拂ハルルナラハ、君主ノ歲入ヲ増加スル唯一ノ方法ハ農業改善ノ助長策ニ求ムルノ外ナシ。換言スレハけねーノ有名ナル格言「貧農即貧國、貧國即貧王」(Pauvres paysans, pauvre royaume, pauvre royaume, pauvre roi) トイフコトハ最有名ナル日本ノ經濟學者ノ思想ヲ精確ニアラハスモノトイフヘシ、コノ格言ニ含マルル眞理ハ彼等ニトリテハ特ニ注意ヲ促スニ足ラサル自明ノ理トセラレタリキ。

(註)經濟錄ニ曰ク「凡ソ土ハ必ス物ヲ生スル者也、米麥等嘉穀ヲ生スルハ上地ナリ、稗嘉穀ヲ生セストモ、百穀ノ内何カハ不知、民ノ食スル物ヲ生セサルコトナシ、食物ノ外ニハ種々ノ物ヲ生シテ國ノ利トナル、是天地ノ人ヲ養フ所也」ト

(四)、重農的思想ガ日本舊時ノ經濟學者中ニ廣ク勢力ヲ占メタルカ爲メ重農的意見ハ特ニ缺乏シ居タリキ。徳川時代ニオケル貨幣ノ問題ニ關

スル思索ハ未タ精細ナラスト雖、又甚シキ過誤ニ陷ラサリシカ如シ。例ヘハ春臺ハ經濟錄ニ於テ貨幣ハ商品トシテ何等ノ效用ヲ有スルモノニアラス、タダシレガ各人ノ欲スル所ノ如何ナルモノトモ交換シ得ルカタメ效用ヲ有スルノミトイヘリ。又彼ハ當時行ハレタル貨幣ノ惡鑄ニ強ク反對シ貨幣ハ純粹ナルヲ貴ブトナシ、又惡貨ガ發行セラレタル場合ニハ賈貨ハ隱遁スルコトハ歷史上ノ事實ナルコトヲ論證シカノぐれしあむ法則ノ觀念ヲ有セシヲ見ルヘシ。彼ハスヘテノ貨幣ハ實價ヲ有セサル可ラストナセルヲ以テスヘテノ種類ノ紙幣ニ反對セル者ニシテ、紙幣ノ價值ノ定メラルヘキ原理ニ就テハ未タ確然タル意見ヲ有セサリキ。

舊時ノ日本ニ於テ重農的思想ノ缺乏セシ所以ハ之ヲ説明スルコト必スシモ困難ナラス、歐洲ニテハめるかんちりずむノ流行シタルハ國際貿易ノ急激ナル發達、十六世紀ニオケル亞米利加嶺山ノ新發見ニヨル貴金屬ノ流入、及ビ、ヨリテ生シタル西班牙ノ勢威等ニ歸スルモノナルガ

(5) 日本經濟叢書 第六卷 108頁

(6) 同上104.136--139頁參照

往時ノ日本ニハスヘテカカル要素ヲ有セス、當時重要ナル外國貿易ナク、國內ニハソノ需要ニ應スルニ十分ナル金銀鑛山ヲ有シ、外國貿易ニヨリテ財寶ヲ獲ルノ必要ナク、又外國ト戰フ爲メニ巨額ノ金銀ヲ準備スルノ要ナカリキ。日本ハ數世紀ノ間、國ヲ鎖シテ内外ニ對シ他國ニ見ル可ラサル太平ヲ現出シタリ。又當時日本ニ於テハ殆ントスヘテノ地方ニ於テ、貨幣取引ハ極メテ制限セラレタル範圍ニ於テ行ハレタルノミニシテ、農夫ハ租稅ヲ物納シ、所要ノ衣ト食トハソノ土地ニ倚リテ自ラ作り自ラ使用ス。物物交換ハ極メテ普通ニ行ハレタリ、コレ亦重商思想ガ嘗テ日本ニ行ハレサリシコトヲ示スモノニアラズヤ。

(五) 經濟學ノ範圍ニ關シテハ舊時ノ日本學者ハ現時ニオケルヨリモ或ハ廣義ニ解シ或ハ狹義ニ解セリ、前者ハ現今ナラハ政治學工藝學等ニ屬スヘキモノヲモ包含シ、後者ハ分配及交換トイフカ如キ最モ重要ナル部分ヲ除外セリ、經濟學ニ於テ最モ深遠ナル問題タル價值論ノ如キハ

彼等ハ多ク之ヲ顧ミサリシカ如シ。佐藤信淵ハ經濟學ヲ土地富源ノ開發ニ關スル學ナリトシ、ソノ内容ヲ分チテ四トシ、一ハ緒論トシテ社會ノ組織、治者ノ要務、人民ノ性情ヲ説キ、以テ斯學ニ關係アル道德的要素ヲ示シ、二ハ一國自然ノ富源ヲ研究スルモノニシテ動植物及鑛物ノ分布等ヲ説キ、三ハ交通教育等ノ生産ニ特殊ノ補助トナルモノヲ研究シ、四ハ貯藏ノ方法特ニ義倉ト稱スル救濟制度ヲ論セリ。(信淵ノ用語ヲ以テイヘバ)以上ノ四者ハ創業、開物、富國、垂統ニ當ル⁽⁷⁾コノ分類ハ未ダ科學的ナラスト雖、又必スシモ斯學ノ要點ヲ逸セルモノニハ非ル也。カノ春臺ハ信淵ヨリモ一層一般的ナル斯學ノ觀念ヲ有シタリ、彼ハ經濟學ヲ定義シテ曰ク「凡天下國家ヲ治ムルヲ經濟ト云、世ヲ經メ民ヲ濟フト云フ義也」食貨ハ上天子ヨリ下庶民迄、天下ノ人ノ治生ノ道ヲ云也⁽⁸⁾ト而シテ經濟研究ノ目的ハ人民ノ性格ヲ向上シ文化ノ發達ニ貢獻スルニアルモノトス。コノ定義ニ於テハ近時ニオケル經濟學ノ固有ノ目的ハ殆ントアラハレオラ

(7) 佐藤信淵ノ農政學說 80頁以下參照

(8) 日本經濟叢書 第六卷 10頁 103頁

ズ、政治ノ一目的タル富ノ生産ハ當時ノ斯學ニ於テハ甚ダ下位ヲ占メ彼等ハ經濟現象ノ單純ナル説明ヨリハ經濟社會上ノ原則ヲ政治及社會ニ應用スルコトヲ以テ一層重要ナルコトトナシタル也。然レトモ彼等ノ觀察方法モ亦一ノ重要ナル眞理ヲ包含スルカ如シ。カノ所謂正統學派ハ自由競争、利己心、自由契約、一定限度ノ政治等ノ假定的狀態ノ下ニ於テ如何ニ富力生産セテ分配セラルルカラ示スノミヲ以テ經濟學ノ目的ヲ全ク完了スルモノトセル點ニ於テ大ナル誤謬アリ。彼等ハタダ假定ヲ基礎トシテ推理ヲ行ヒ、演繹法ニヨリテ學理ヲ引キ出スモノニシテ、カクテ構成セラレタル經濟學ナルモノノ基礎ハ頗ル薄弱ニシテ人類ノ實生活ニ觸レサルモノトイハサル可ラス。すみす、なるさす、せい、りかるどノ如キハ必スシモカクノ如キ狹キ見解ニ捉ハレズトスルモ、コノ派ノ流ヲ汲ム者ノ中ニハ、人ヲ日スルニ最小ノ勞費ヲ以テ最大ノ富ヲ蓄積セントスル單一ナル目的ニ没頭スルモノノ如ク解スルモ、人ハ往々ニシテ富ヲ生産セス

シテ之ヲ破壊スルコトアリ。思フニ彼等ハ人ヲ以テ自然ニ變化シ發達シ道德的觀念ヲ有スルモノナリトハ解セザル徒ニシテ、實際ヲ離レテ徒ラニ假定ノ下ニ空理ニ走り狹キ見解ニ陷レルハ誤レルモノトイハサル可ラス。之ニ比スレバ日本舊時ノ學說ハアマリニ漠然トシテ定マル所ナシ、彼等ハ經濟學ノ地位ヲ究メス、他ノアラユル社會上ノ利害關係ト相關連シテ經濟活動ヲ觀察スルコトナク、タダ經濟上ノ個々ノ事象ヲ研究スルノミニシテ、内容充實セル秩序アル組織ヲ有スル思想ヲ形成スルヲ得サリシ也。要スルニ西洋ノ舊學說ハ精妙ニ組立テラレ科學的思想ヲ以テ飾ラルルモ、單ニ美シキ器械若クハ人ノ骸骨ニ過キス。日本ノ舊學說ハ人類ヲ描寫スルコト極メテ幼稚ナルモ、雅致アリ暗示ニ富メリトイフベシ。而モ兩者共ニ完全ニ人類ヲ描クニ足ラサルニ至テハ一ナリ。

六、舊時ノ日本經濟學者ノ思想ニツキ最注意ヲ惹クコトハ、彼等ノ富ニ關スル特別ナル學說或ハ貨幣ノ原理ヨリモ、寧ロ彼等カ説明ヲ要セサ

ル迄ニ自明ノ理ナリトセルモノコレ也。當時ノ日本ヲ支配セル思想ノ一ハ、世人ハ自己自身ノタメニ生活スルハ賤シムヘキコトナリトイフニ在リ。而シテ武士ハ自己ノ經濟的利益ヲ進メフトノ欲望ハ全然缺如シタリシカ故ニ他ノ階級ヨリモ上位ニ立ツノ榮譽ヲ得タリシ也。ふいんくハ日本ノ文化ハ利他主義ノ上ニ立チ、吾人ノ文化ハ利己主義ノ上ニ立ツトイヘリコハモトヨリ

誇張ノ嫌アリト雖、尙ソノ一端ヲ窺フニ足ル可シ。又舊日本ノ標語ハ「固定」(Stability)ニ在リ。彼等ハ常ニ祖法ハ枉ク可ラストナシ、之ヲ遵奉シテ敢テ改ムル所ナク、國民ハコノ沈滞不動ノ中ニ永キ平和ノ夢ヲ食リシモノニシテ、國ヲ開カシメントスル外人ノ努力モ常ニ之レカ爲メニ失敗シタリ。之ニ反シテ西洋ノ標語ハ固定ヨリハ寧ロ進歩改善ニ在リ。コハ眞ニ高尚ナル標語ナリ。然レトモ實情ハ果シテ之ニ伴ヘルヤ、現在ノ狀態ハ果シテ百數十年前ニ生存セシ熱心ナル改革者ヲシテソノ眉ヲ擧メシムルコト、恰モ彼等ガ中世紀ニ生存セシ改革者ニヨリテ排斥セ

ラレタルト同様ノモノアルヲ見ズヤ、各時代ハソノ現在ニ齟齬シテ過去幼年時代ノ期待ヲ裏切リツツアリ。世人ハ現在ノ蒼海ヲ知ルモ、過去ノ桑田ナリシヲ知ラス、而モ現時ニオケル蒼海モ亦後日桑田ト變スルニ及ンテハ、又ソノ蒼海タリシコトヲ知ラサルヘキ也。

三

ごろつば一才氏ノ說ク所大要以上ノ如シ。ソノ所說ノ中ニハ未タ吾人ノ首肯スルヲ得サル點少ナカラスト雖、今一一之ヲ述ヘス。タダソノ論ノ主トシテ德川時代ノ經濟學說ヲ歐洲經濟學史ト對照シ彼我ノ異同ヲ說ケル所ニ大ナル特徴ヲ見ルヘシト雖、而モ未タ必スシモ德川時代ニオケル著名ノ經濟學者ノ說ヲ網羅シソノ主要ナル論點ヲ示サザル憾アリ。河上博士ノ國家學會雜誌ニオケル論文ハ蕃山、徂徠、春臺、竹山、宣長、樂翁、山陽、信淵其他ノ學說ヲ採シテ德川時代ノ經濟學說ノ特徵ヲ明シ說明セラレタルモノニシテ、恰モ本ノ缺點ヲ補フニ足ルヘク、又瀧本博士ノ著書ニ至テハ往々德川時代ノ

(9) Henry Finck Lotus Time in Japan, preface.

經濟學說ヲ泰西學者ノソレト比較スルノミナラス、支那學說ノ影響ノ最モ深甚ナリシコトヲ説キ、且、時代ト學說トノ相交涉スル所頗ラ密切ニシテ德川時代ノ經濟學說ハ封建制度ノ鎖鑰ヲ捕捉スルニ非レハ解スル能ハサルコトヲ力説セラレタルモノナリ。即チ德川時代ノ經濟學說ニ關スル以上三種ノ研究ハソレゾレ特色ヲ有シ一ヲ以テ他ヲ棄ツルコトヲ得ス、彼此相考較スルノ要アルモノトイフ可キ也。

(附言)右三種ノ研究ノ外、尙、明治二十七年國家學會雜誌第六卷七十九號「日本ニ於テ經濟學研究ノ狀況」(添田壽一)ト題スルモノニハ「開港以前ニ在テ日本ノ經濟ハ一種ノ特色ヲ呈シ諸大家皆農業ノ發達ヲ圖リ大名ノ倉庫ヲ充サントチ力メ、工商ヲ賤ミ財産ノ平等特ニ土地ノ平等ヲ主唱シ、論スル所政治ト道義トニ涉リ往々國家社會主義ニ傾ケリ、其最モ有名ナルチ二宮尊德トナシ佐藤信淵トナシ熊澤了介トナス。二宮氏ハ信用組合ノ組織ヲ以テ唱リ、熊澤氏ハ卓見ヲ以テ開エ佐藤氏ハ最モ著述ニ富メリ」ト論シ舊幕時代ニオケル經濟學者ヲ列舉シ之ニ次ノ如キ學派名ヲ附シタリ。

熊澤	了介	兼貴農派	野中	兼山貴農派
宮崎	安貞	貴農派	貝原	益軒貴農派
新井	白石	貴商派	荻生	徂徠貴農派

太宰 春臺 貴農派 佐藤 信淵 カメラリスト
 賴 山陽 貴農派 二宮 尊德 社會主義
 小宮 正秀 (小宮山昌秀ナルベシ貴農派)
 德川時代ノ經濟學者ニ對シタクノ如キ學派ヲ以テ指稱スルコトハ果シテ適當ナリヤ否ヤ頗ル疑問ニシテ、又、是ノ論斷中ニモ訂正ヲ要スルカ如ク考ヘラルル點少カラサルカ、
 角さるつべしノイヘル如ク、德川時代ノ經濟學說がふじなくらにノ説ニ類スルモノ多キコトハ之ニヨリテモ知ラルヘキ也。